

## —原著—

最近5年間における長岡赤十字病院歯科口腔外科新患患者の臨床統計的検討  
成松花弥<sup>1)</sup>, 小林孝憲<sup>1,2)</sup>, 飯田明彦<sup>1,2)</sup>, 上野山敦士<sup>1,2)</sup>, 山田瑛子<sup>2)</sup>, 大貫尚志<sup>2)</sup>, 齋藤太郎<sup>2)</sup>,  
安楽純子<sup>3)</sup>, 高木律男<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 長岡赤十字病院 歯科口腔外科 (主任: 飯田明彦 部長)

<sup>2)</sup> 新潟大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面口腔外科学分野 (主任: 高木律男 教授)

<sup>3)</sup> 三之町病院 歯科口腔外科 (主任: 安楽純子 科長)

A Clinico-statistical Study of New Outpatients during Last 5 Years  
in Department of Dentistry and Oral Surgery, Nagaoka Red Cross Hospital

Kaya Narimatsu<sup>1)</sup>, Takanori Kobayashi<sup>1,2)</sup>, Akihiko Iida<sup>1,2)</sup>,  
Atsushi Uenoyama<sup>1,2)</sup>, Eiko Yamada<sup>2)</sup>, Hisashi Ohnuki<sup>2)</sup>, Taro Saito<sup>2)</sup>,  
Junko Anraku<sup>3)</sup>, Ritsuo Takagi<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> Department of Dentistry and Oral Surgery, Nagaoka Red Cross Hospital (Chief: Dr. Akihiko Iida)

<sup>2)</sup> Division of Oral and Maxillofacial Surgery, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences (Chief: Prof. Ritsuo Takagi)

<sup>3)</sup> Department of Dentistry and Oral Surgery, Sannocho Hospital (Chief: Dr. Junko Anraku)

平成 29 年 4 月 7 日受付 平成 29 年 5 月 5 日受理

キーワード: 病院歯科口腔外科, 外来新患, 臨床統計

Key words: hospital dentistry and oral surgery, new outpatients, clinico-statistical study

### Abstract

A clinico-statistical study of new outpatients during the 5 years from 2011 to 2015 was performed, and the results were compared with the data from the previous 5 years (2006 to 2010).

The results were as follows:

1. The number of new outpatients was 10,056 in the last 5 years. Compared with the previous 5 years, the number increased by 14.1%.
2. From 2012, the number of patients over 60 years old continued to increase. In contrast, the number of patients under 60 years old remained stable.
3. The number of the patients from the Chuetsu area accounted for 97.0%; the number from Nagaoka City was 6,286 (62.5%) and from the Chuetsu area excluding Nagaoka City was 3,473 (34.5%).
4. The number of referral patients increased gradually in the last 5 years, and the referral rate was 85.6% in 2015.
5. Patients with dental disease were most common, and the number increased. The number of patients with oral and maxillofacial disease remained around 700 annually.

These results indicated that our department might play an important role in the management of oral and maxillofacial disease in the Chuetsu area because the referral rate was increasing and the demand for specialized medical services for oral and maxillofacial disease was stable. In addition, acceptance of cases requiring perioperative oral management from the medical department influenced this survey greatly. It was, therefore, concluded that a further enhancement of the collaboration with the general dentists and the medical department is important.

### 和文抄録

2011年1月から2015年12月の5年間における長岡赤十字病院歯科口腔外科の新患者について臨床統計的検討を行うとともに、2006年1月から2010年12月の5年間のデータと比較し、以下の結果を得た。

1. 対象期間中の新患総数は10,056名で、過去5年間から14.1%増加していた。
2. 年齢別では、2012年以降、60歳以上が増加した一方、60歳未満に大きな増減はなかった。
3. 居住地別では、中越地区が97.0%を占めており、その内訳は長岡市が6,286名(62.5%)、長岡市以外の中越地区が3,473名(34.5%)であった。
4. 紹介率は年々増加し、2015年には85.6%に達した。
5. 疾患別では、歯の疾患が最も多く、年々増加していた。いわゆる口腔外科疾患は各年700名程度と安定していた。

以上の結果、中越地区全域からの紹介が増加し、かつ高度な専門性を要する疾患は一定数が維持されていたことから、当科は中越地区における病院歯科口腔外科の拠点として機能しているものと思われた。また、年齢分布や院内紹介の増加から周術期口腔機能管理症例の増加が大きく影響しているものと考えられ、今後も病診連携、医科歯科連携の強化が重要と考えられた。

## 【緒 言】

長岡赤十字病院（以下、当院）は地域がん診療連携拠点病院、総合周産期母子医療センター、救命救急センターなど種々の機能を有する、病床数649床の新潟県中越地区の急性期病院である。歯科口腔外科（以下、当科）は1980年代より日本口腔外科学会認定専門医が常勤し、専門的な口腔外科診療や有病者の歯科治療を行ってきた。また2011年7月以降は口唇裂・口蓋裂をはじめとする先天異常の積極的な治療を開始するとともに、2012年4月に行われた周術期口腔機能管理の保険導入に伴い周術期患者の口腔管理にも力を入れている。今回、当科の現状を把握するとともに、中越地区における病院歯科口腔外科として当科の担っている役割を検証するため、最近5年間の新患者の動向について臨床統計的に検討した。

### 【対象および方法】

2011年1月から2015年12月の5年間に当科を初診した新患者を対象とした。新患者は当科を初めて受診した患者および前回受診から1年以上経過し、新たな口腔外科疾患で受診した患者と定義し、新患者の年次推移、性別、年齢、居住地、紹介医療機関、疾患分類を調査した。疾患分類は、日本口腔外科学会口腔外科疾患調査の分類に準じたが、唾液腺良性腫瘍および唾液腺悪性腫瘍はそれぞれ良性腫瘍、悪性腫瘍として扱い、計15項目とした。また、それらの結果を過去の2006年1月から2010年12月の5年間の新患者8,812名のデータと比較した。

## 【結 果】

### 1. 新患者の年次推移と性別

対象期間における新患者総数は10,056名で、2006年から2010年の8,812名に比べ14.1%増加していた（図1）。年次推移では2011年から増加傾向を示し、2015年には2,236名と過去10年間で最も多かった。

性別では男性4,836名、女性5,220名、男女比は1:1.1で、過去5年間の1:1.2と同様の傾向であった。

### 2. 年齢別新患者

年齢別では、出生直後から90歳以上にわたり広く分布していたが、割合としては20歳代・30歳代と60歳代に二峰性のピークを示した（図2）。このうち、2011年は30歳代が最多であったが、2012年以降は60歳代へ移行し、2015年には60歳代が全体の17.3%を占めていた。一方で、新患者数としては60歳未満に大きな増減はなく、概ね安定していた。

### 3. 居住地別新患者

居住地別では、5年間の合計で中越地区が9,759名(97.0%)を占めており、その内訳は長岡市が6,286名(62.5%)、長岡市以外の中越地区が3,473名(34.5%)であった（図3）。

### 4. 紹介率および紹介医療機関別新患者

紹介率は年々増加傾向にあり、2015年の院外紹介率は78.8%、院内紹介を含めた全体の紹介率は85.6%であった。

紹介医療機関については、歯科診療所からの紹介が最多で、その傾向は各年を通して変わらず、院内他科が続いた（図4）。病院歯科からは毎年40名前後と一定数の紹介があった。また、院内紹介が2012年以降増加し、2011年は297名であったものが、2015年には722名に達した。

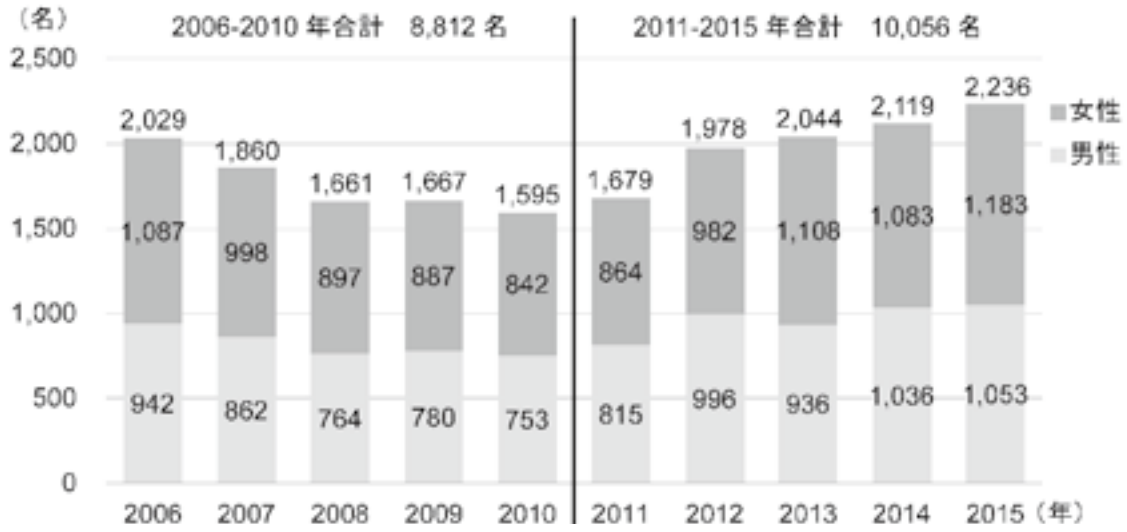


図1 年次推移および性別

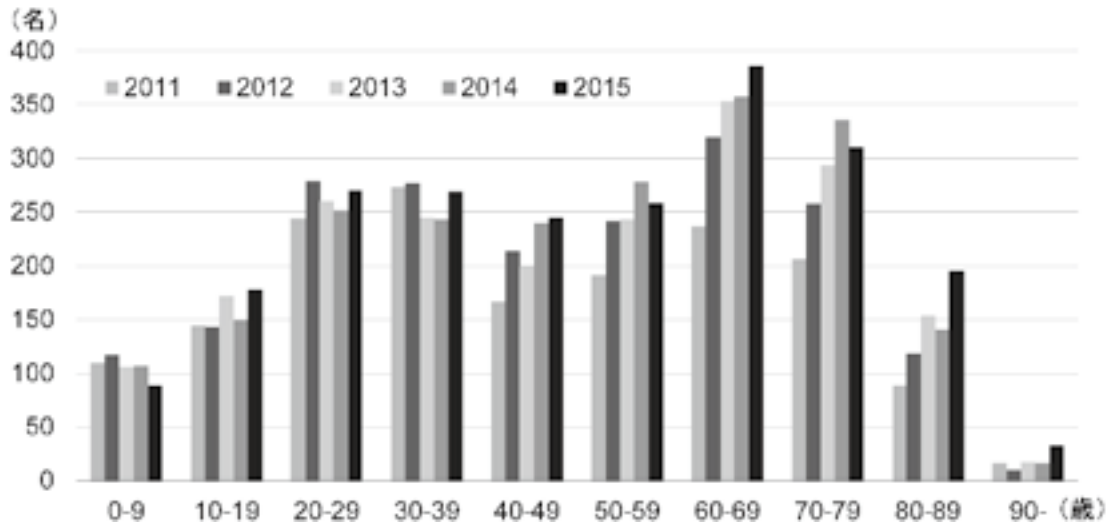


図2 年齢分布

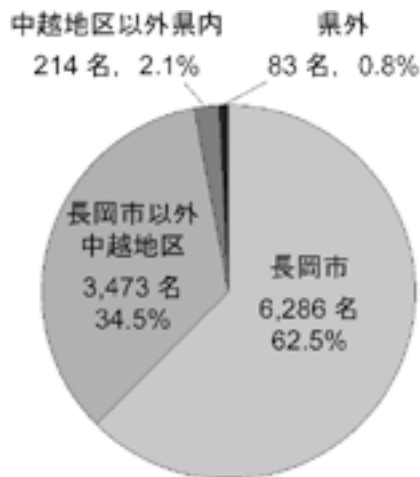


図3 居住地別

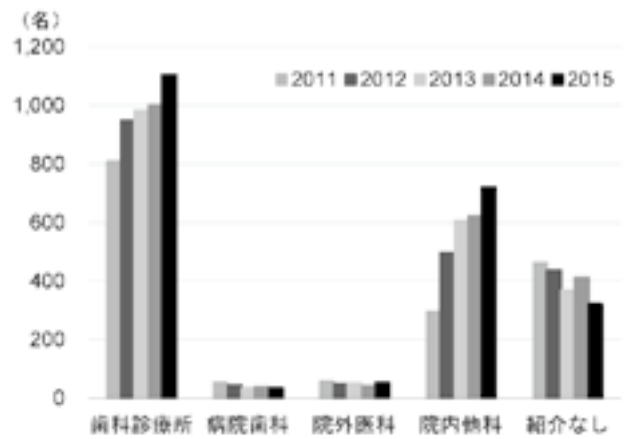


図4 紹介医療機関

表 1 疾患別

	2011	2012	2013	2014	2015	合計	年間平均	
							2011-2015	2006-2010
歯の疾患	928	1,170	1,315	1,422	1,475	6,310	1,262	-
先天異常*	31 (24)	33 (19)	22 (7)	22 (9)	23 (12)	131 (71)	26.2 (14.2)	9.4 (3.6)
顎変形症	4	4	3	7	6	24	4.8	-
外傷	87	75	87	82	75	406	81.2	-
炎症	82	84	78	74	105	423	84.6	-
嚢胞	83	113	90	90	103	479	95.8	-
良性腫瘍	60	74	67	73	85	359	71.8	45.8
悪性腫瘍	20	30	27	15	17	109	21.8	23.4
唾液腺疾患	17	14	12	9	16	68	13.6	-
粘膜疾患	163	164	142	141	140	750	150	-
顎関節疾患	134	119	117	92	108	570	114	-
神経疾患	10	17	21	26	18	92	18.4	-
歯科心身症	41	49	42	45	38	215	43	-
OSAS**	8	10	5	4	4	31	6.2	-
その他	11	22	16	17	23	89	17.8	-
合計	1,679	1,978	2,044	2,119	2,236	10,056	2,011.2	-

\* ( ) 内は口唇裂・口蓋裂および症候群を内数で示す

\*\* 睡眠時無呼吸症候群

### 5. 疾患別新患数

疾患別では、5年間の合計でう蝕や歯周疾患、埋伏歯、智歯周囲炎、欠損歯、義歯不適合などの歯の疾患が6,310名(62.7%)と最も多かった(表1)。いわゆる口腔外科疾患では白板症、扁平苔癬、口内炎などの口腔粘膜疾患が750名(7.5%)と最も多く、顎関節疾患570名(5.7%)、嚢胞479名(4.8%)、炎症423名(4.2%)、外傷406名(4.0%)、良性腫瘍359名(3.6%)、歯科心身症215名(2.1%)、先天異常131名(1.3%)、悪性腫瘍109名(1.1%)、神経疾患92名(0.9%)、唾液腺疾患68名(0.7%)、睡眠時無呼吸症候群31名(0.3%)、顎変形症24名(0.2%)と続いた(表1)。

疾患別の年次推移をみると、経年的に歯の疾患が増加傾向を示した一方、口腔外科疾患は各年700名程度と一定数を維持していた。専門的な治療を要する悪性腫瘍は過去5年から継続してほぼ同程度が受診しており、緊急性が求められる炎症、外傷もほぼ安定していた。そのほか口唇裂・口蓋裂を含む先天異常は2011年以降は各年20名以上が受診し年間平均は26.2名(うち口唇裂・口蓋裂14.2名)に達し、過去5年間の平均9.4名(うち口唇裂・口蓋裂3.6名)を大きく上回っていた。

### 【考 察】

今回、当科の現状を把握する目的で、最近5年間の新患患者について臨床統計的に調査した。

その結果、当科の新患患者は2011年以降、年々増加傾向であった。詳細についてみてみると、性別では特に変化がないものの、年代別では60歳以上の割合が急増し、特に60歳代は2011年の14.1%から2012年には

16.2%と年代別で最多となり、以後、17%前後を保っていた。同時期の長岡市の人口構成<sup>1)</sup>をみると、60歳代は年代別で最多で、2011年の14.5%から年々増加し2015年には15.3%となっていたが、当科新患の60歳代の増加は人口構成の変化以上に急であった。これは2012年4月以降に保険導入された周術期口腔機能管理に当科が初年度から積極的に介入したことが要因と考えられる。すなわち、介入後、周術期口腔機能管理の患者として2012年度に500名、2013年度に570名、2014年度に622名<sup>2)</sup>と多数が受診しており、かつ、周術期口腔機能管理の対象患者は中高年のがん患者が多いため、医療圏内の高齢化を上まわる増加率を示したものと思われる。

居住地別では、長岡市を含む中越地区が全体の97.0%を占めていた。その内訳は長岡市が62.5%、長岡市を除く中越地区が34.5%であった。長岡市、小千谷市、見附市、出雲崎町、柏崎市、刈羽村からなる中越医療圏の推計人口は2012年10月1日時点では458,159名<sup>3)</sup>、同時期の長岡市の人口は282,805名<sup>4)</sup>で、中越医療圏における長岡市人口の割合が61.7%、長岡市以外が38.3%と当科の新患の割合は同医療圏の人口構成の割合に近似していた。したがって、当科の新患患者は長岡市を中心とした中越地区の全域から広く受診していることが示唆された。

紹介率は年々増加傾向にあり、2015年の院外紹介率は78.8%で、2015年度の当院全体の紹介率70.2%<sup>5)</sup>と同程度であった。院外紹介では歯科診療所からの紹介患者が2011年の808名から2015年には1,104名と増加しており、一方で紹介なしの患者数は減少していた。これは、本邦で推進されているかかりつけ医の普及や医療機

能の分化、連携推進を反映しているものと考えられ、当科は高次医療機関としての役割が強まってきたものと思われた。さらに、病院歯科からの紹介も毎年40名前後あり、中越地区の病院歯科口腔外科の拠点としての役割も担っているものと考えられた。また、院内紹介患者は2012年以降大きく増加していたが、前述した周術期口腔機能管理への積極的介入が大きく影響しているものと思われた。

疾患別患者の推移では、歯の疾患の患者数が2012年以降増加していた。これもう蝕、歯周病などを主とした周術期口腔機能管理に関連する新患の増加が影響しているものと思われた。一方で、口腔外科疾患は各年700名程度と安定していた。このうち口唇裂・口蓋裂や症候群患者は、2011年以降当科でも積極的な治療を開始した結果、過去5年が年平均3.6名であったものに対し、最近5年では14.2名と著明に増加していた。また顎変形症や悪性腫瘍といった高度な専門性を必要とする疾患も各年を通して受診していることから、当科が高次医療機関としての役割を担っているものと考えられた。

現在、本邦ではかかりつけ医を中心とした地域包括ケアシステムの普及や病院機能分化が推進されており、その状況下で当院のような地域中核病院の存在意義は大きい。そのような病院内における当科の役割としては、高度な専門性を維持して顎顔面領域のあらゆる疾患に対応することが求められていると考えている。

今回の調査では、悪性腫瘍など専門性や集学的治療が必要とされる疾患は以前と変わらず受け入れていることが改めて確認されるとともに、新たに先天異常に対する一貫治療を導入したことなどこの5年間の取り組みが反映されていた。

これに加え、がん治療に関わる口腔機能管理の重要性が叫ばれるなか、当科でも注力している周術期口腔機能管理が新患者動向に大きく影響していたことが示唆された。今後がん患者は増加すると思われ、地域がん診療連携拠点病院である当院においては、これまで以上に医科歯科連携ならびに病診連携を強化していくべきであ

ると考えられた。

## 【結 語】

当科の新患者の動向を調査した結果、長岡市を含む中越地区全域からの紹介が増加していた一方、高度な専門性が必要な疾患は一定数が維持されており、当科が中越地区における病院歯科口腔外科の拠点として機能しているものと思われた。また、がん患者を中心とした周術期口腔機能管理症例も増加しており、医科歯科連携、病診連携の強化が反映されているものと考えられた。

## 【引用文献】

- 1) 新潟県. 人口時系列データ (市町村別). 2各歳別人口 (合計).  
<http://www.pref.niigata.lg.jp/tokei/1282075307357.html> (最終アクセス日 2017. 3. 1)
- 2) 飯田明彦, 金田聡, 池田理恵, 小林孝憲, 草間昭夫: 長岡赤十字病院栄養サポートチーム (NST) の活動評価—発足後11年間について—. 長岡赤十字医誌, 28: 1-7. 2015.
- 3) 新潟県. 第5次新潟県地域保健医療計画.  
[http://www.pref.niigata.lg.jp/HTML\\_Article/925/404/17tyuuetu.0.pdf](http://www.pref.niigata.lg.jp/HTML_Article/925/404/17tyuuetu.0.pdf) (最終アクセス日 2017. 3. 27)
- 4) 長岡市. 住民基本台帳人口及び世帯数. 平成24年4月1日.  
<http://www.city.nagaoka.niigata.jp/syukai/jinkou/file/jyumin-h25.pdf> (最終アクセス日 2017. 4. 5)
- 5) 長岡赤十字病院. 平成27年度長岡赤十字病院診療実績.  
<http://www.nagaoka.jrc.or.jp/contents/clinicalindex> (最終アクセス日 2017. 4. 1)